

西光

第176号

秋彼岸号

平成30年
9月7日発行

浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142



秋のお彼岸法要

9月22日(土)13:00～

13:00～13:30 お彼岸のお勤め

※お説教の前後に塔婆回向をいたします。

14:00～15:00 お説教

お説教の後にお茶とお菓子を用意しております。

説教師

たつの市 恩徳寺住職

猪澤良秀師

秋のお彼岸法要

今年のお彼岸法要は九月二十二日(土)です。

十三時から赤いお経本でお彼岸のお勤めをいたします。

十四時からはお説教がございます。この度の説教師は皆様おなじみの恩徳寺の猪澤良秀師です。身近故に気づきにくいのですが、猪澤師は派内随一の説教師で、お彼岸などの時期には各方面から引つ張りだこなのです。

お説教の後にはお茶とお菓子をお出しいたしますので、どうぞ一服休憩下さい。お菓子は、毎回同じものというのもおもしろくないので、毎回各地の逸品を取り寄せることにしております。お楽しみに。

そしてお説教の前後の時間で塔婆回向とうばえこうを行っております。亡き先祖の戒名を読み上げ、西国三十三カ所の御詠歌をあげながら故人を供養します。塔婆は一霊三〇〇円です。ご希望の方は当日世話人席にてお申し込みください。前もって世話人、もしくは住職、寺の方に言付けて頂いても結構です。その際に誰の分をあげるのかが分かるように、お申込みになる方の戒名をメモしてきて下さい。○家先祖代々でも大丈夫です。家でお祀りしていない兄弟や奥様の実家の分をお申込みになる場合などで、戒名が分からない場合は俗名のままでも結構です。

どうぞ皆様のお参りをお待ちしております。



大塩町戦没者・空爆犠牲者の追悼法要のご案内

● 日時 九月二十三日(日)・秋分の日

午前十時〜お勤め

午前十一時〜お説教

● 会場 宮本丁 円龍寺

ご遺族でなくてもお勤め、お説教ともご参列頂けます。お誘い合わせてお参り下さい。

戦没者といいますが、西光寺には参道の北側に忠魂碑ちゅうこんひがあります。忠魂碑はもともと大塩駅の踏切を南に渡った東側(元松屋衣料店の前)に大正三年四月に建立されました。この碑は日清・日露戦争で戦死された十七柱の碑で、この前で毎年四月三日に招魂祭しょうこんさいが神式と仏式と交互に隔年で勤められていたようです。戦後、昭和二十二年、この忠魂碑は高さ二メートルにも及ぶ台座と周囲の玉垣が取り除かれ、上部の碑の部分が西光寺に移築され、現在に至っているというわけです。お彼岸のお墓参りの折にはどうぞ、忠魂碑にもお参り頂ければと思います。



気になる…



「表書き」について



仏事に限らず、のし袋は表書きや包み方、水引の種類などに応じたルールがあり、正直辟易してしまいます。今回はのし袋の表書きについて書いてみます。あくまで私見ですので、ご参考まで。

まず僧侶・寺に渡すものの表書きはすべて「御布施」で大丈夫です。個々の案件に応じて、「御布施」の文字の右肩に「納骨」「初七日」「仏壇開眼」「位牌お性根抜き」○○ 第三回忌」など書いて頂くとよりわかりやすく丁寧です。特に複数一緒に渡す場合は書いて頂くと助かります。まれに「読経料」「代」と書かれてあることがありますが、サービスの対価として頂いているようで、抵抗があるまでは言いませんが、少しこそばゆい気持ちになります。

神仏へのお供えや目上の人に対して使う「上」という字を一字書かれる方も多いと思いますが、それでも問題ありません。ただこちらから「上」と書いて下さいというのはそれこそ上から目線でものをいっているようで少し気が引けてしまいますが…

表書きは誰が何のつもりで渡すのかを示すものです。御布施は私や寺の者が直接受け取るので、その御布施が誰から頂き、何の御布施かは明らかなので、極論をいえば何も書かなくても問題はありませぬ。しかし渡す方からすればそうもいっていられませぬ。私が逆の立場ですと恐ろしくしっかり書くと思います(笑)

実際月々のお逮夜参りの際に頂くお布施は何も書いていない方も多いです。御布施だと明らかに分かるからです。毎月のことですし、わざわざお願いにあがることでもないのです、略式にして頂いて何の問題もありません。

のし袋に名前・住所・金額をしっかりと書いておく必要があるのは香典や御仏前です。これは受付で渡す、人に頼むなど受け渡しが当事者間でなされないことも多く、また

遺族がいつとぎに次々と受け取ることもあるため、しっかりと書いておいた方が、後々のお礼や香典返しをする際に間違いがおきなくて済みます。ただ住所に関しては、のし袋に書く欄があっても親族や親しい友人などで明らかに受け取り側が分かる場合はいらないと思います。香典や御仏前に関しては、名前はフルネームがいいと思います。町内は特に同じ名字が多いので。

次に使う漢数字についてです。お経をはじめお寺に関わることは旧字のイメージが強いかもしれませんが、慣れない旧字を無理に使う必要はありません。「一〇、一」で十分です。むしろ一番わかりやすく、誰がみても間違つことはありません。

のし袋に関することは、また第二弾を次号で書く予定にしております。ご不明な点はどうぞ住職またはお寺に遠慮せず聞いて、うやむやを解消して下さい。



霊閑だより



以前、本山永観堂の廊下に書かれてあったことばです。なるほど。このことばを見てすぐ思いましたのが、次のことばです。

人生には二つの坂がある。

のぼり坂、くだり坂、

そしてまさかである

このようなお話があります。我が子を亡くすという「まさか」に遭遇したキサー・ゴータミーのお話です。幼くして子供を失ったキサー・ゴータミーはその死が受け入れられ

ず、「この子の病気を治してほしい」と死んだ子を抱いてお釈迦様のところへ行きました。そこでお釈迦様は「この子の病を治すには芥子の実がある。しかし芥子の実はまだ一度も死者の出ていない家からもらってきなさい」と告げたのです。彼女は早速町に戻り芥子の実を求めました。芥子の実は得やすかったのですが、死者を出していない家はどこにもなかったのです。お釈迦様の所へ戻った彼女はお釈迦様のことばの意味をさとり、我が子の死を受け入れ我が子を墓に葬ったというお話です。

お釈迦様は彼女にすぐ死という事実を受け入れさせるのではなく、まずは寄り添いました。そして彼女に自ら気づき、受け入れる時間を与えたのです。一度も死者を出したことのない家などあるはずもありません。皆家族との死別の悲しみを味わっていたのです。そして彼女は人の一生に必ず終わりがあるのだということに気づいたので、我が子を墓に葬ることができたのは、悲しみが癒えたからではありません。死別の悲しみが自分だけではなく、また誰も死を避けることはできないということを彼女はさとり、少しだけ前に進めたのです。

そして彼女はさらに気づきを得ます。自分と我が子しか見えていなかった彼女の目に、他の人の悲しみ、苦しみも見えるようになったのです。後に彼女は人の苦しみを救うため、お釈迦様の弟子になりました。

人は生きていくと必ず「まさか」に遭遇します。会社をクビになる、離婚する、加害者になってしまふ。そして誰もが直面するのが、老病死という「まさか」です。老いを感じる、病気になる、そして死を迎えるという苦しみです。苦しみとは言い換えれば自分の思い通りにならないことです。なんとか避けたい、受け入れたくないという思いが余計に自分を苦しめてしまいます。すべての人やものは移り変わっていく(諸行無常)ということは頭ではわかっているのだけれど、私たちはそれを受け入れるのに時間がかかります。

お釈迦さまは、厳しいけれど、「まさか」も否定し、避けるのではなく、受け止め、抱えて生きることを説かれます。それで気づくこと、得られることが必ずあるからです。



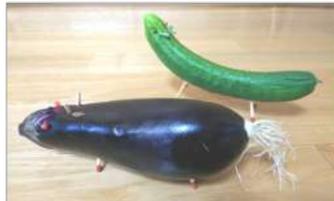
～主な活動記録～



7/10 どんぐり保育園ばら組・さくら組



小学生の次は保育園児が西光寺を訪ねてくれました。我が息子もばら組でお世話になっております。朝送って行った一時間後にまた帰ってきました(笑)。お盆前ということもあって「ぼんちゃんのぼんやすみ」という絵本をスクリーンに映して読み、その後ご先祖様が乗って行き帰りするなすびの牛やきゅうりの馬を使いながらお盆ってなんだろうかということをお話ししました。意外にも仏壇やお墓参りに馴染みがある子が多いのには驚きました。



以前、町探検で西光寺を訪ねてくれた大塩小学校2年生のみんなより絵入りのお手紙を頂戴しました。門前の掲示板に貼らせて頂いています。

7/10 兵庫青年会の法式研究会

青年僧で幅広く意見交換し合いながら、お経、法要、作法などを学んでいます。

7/11 版画研修会 於 本山

毎年お配りしておりますカレンダーの版画と標語、青年僧が自分たちで持ち寄り作っています。残念、版画採用されずです。また来年頑張ります！

7/14 法話研鑽会 於 網干大覚寺

法話の勉強会。中西前ご法主が毎月開催されている法話の会に青年僧がお邪魔をいたしました。毎年私もこの法話の会でお話しさせて頂いておりますが、耳の肥えられた檀家さんたちに助けられ、自分の法話が上手になったといつも錯覚しております(笑)

7/20 夏安居 於 本山

日頃の研究の発表を行う勉強会がこの夏安居。先代は毎年発表しておりましたが、私は専ら聴講のみです。。。

7/25-27 地方教学講習会

お寺であまり行事のない6～7月は坊さんにとっては勉強に励む期間なのです。様々な講義があるのですが、中でも衝撃を受けたのは、比叡山で行者として修行された方の千日回峰行のお話しです。千日回峰行の中でも特に有名な堂入りという行(9日間、断食・断水・不眠不臥により一切の欲を断ち、不動明王と一体となる)がありますが、これを行う前には遺影も作り、生前葬を行うということです…

【西光寺役員の去就】

【退任】

東ノ丁 男性世話人 梶原信孝さん

東ノ丁 女性世話人 井本弘子さん

東ノ丁 女性世話人 山本文江さん

【就任】

東ノ丁 女性世話人 濱本順子さん

東ノ丁 女性世話人 黒川紀子さん

この度長らく世話人をお務め頂きました三氏が退任されることになりました。梶原さんには平成20年より、井本さん・山本さんには平成9年よりお世話を頂きました。その間、善導忌・五重相伝会・先代葬儀・晋山式など大きな行事が立て続けにありました。長らくの間、西光寺の護持運営にご尽力頂き、誠にありがとうございました。

またこの度、新たに就任頂きました濱本さん、黒川さんには今後ともよろしくお願い申しあげます。

門前掲示板



8月

今日一日、これという善事ができなかったせめて、他人の善事を讃えよう

9月

長所もいざれば 短所となり
短所も自覚すれば 長所となる
見方を変えれば 味方となる

【ご逝去の報】



慎んでお悔み申し上げます。

生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

大鳥 赤尾壽三さん(85歳) 8月11日没

中ノ丁 白矢太さん(86歳) 8月29日没

東ノ丁 古賀一義さん(88歳)9月7日没

【寺子屋】



今は仏壇を中心に基本的な事柄を改めて学んでいます。どんな仏さまを祀るのか、これは何という仏具なのか、なぜ必要なのか、どのように配置すればよいのか等々。

【今後の予定】

10月4日(木) 11月7日(水)

両日とも午後1時半～午後3時

【雑記】

この度の台風21号の猛威は凄まじいものがありました。お寺では古い瓦が2, 3枚落ちた程度で済みましたが、皆様のご自宅は被害はありませんでしたでしょうか。今年の夏は酷暑・大雨・地震・台風と穏やかに過ごせる日が少なかったように思います。当たり前が当たり前でなくなっている世の中に恐れを感じます。人間の欲がこのような形で返ってきているのでしょうか。一人の人間の欲だけでも際限が無いのに、世界の70億人の欲を重さに換算すれば如何ほどになるのでしょうか…